

令和4年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校

建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】【reflection】 4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の推進	これまでは予約制でICT設備がある教室を利用したり、可動式の大テレビを利用して取り組んでいたが、今年度の1年生からは全教室プロジェクターとホワイトボードを設置していただき、取り組みやすくなった。	新学習指導要領に対応した学習評価法の運用に向けて、各教科で小テストや課題レポート、班活動などの取り組み回数を増やしていく。	ICT設備と教科書の教授資料をしっかりと活用して説明時間をコンパクトにまとめ、生徒が活動できる時間を生み出すことが重要になる。また、授業に対する予習復習や振り返りの機会にChromebookを十分に活用して配信と回収を行っていく。					
	進学	進路保障を担う進路指導の充実	近年、専門学校・短期大学に進学する生徒の95%は総合型選抜(AO入試)と学校推薦型選抜を利用している。また、大学に進学する生徒の78%が同様の制度を利用している。これらの多くが特色入試を経験している。	進路実績に応じた試験対策を講じる必要がある。特に本校受験生の多くが利用する総合型選抜や学校推薦型選抜に合わせた対策を提供する。	各コースで1年次より、入試制度を理解したカリキュラムの導入が必要である。例えば、小論文対策、プレゼンテーション、ディベートや高校生活における活動計画、進学後の学修計画、志望理由など計画的かつ継続的な指導を行う。又、同時に本人の適性・適職に合った学問や分野を提議する。					
	就職	就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関と連携させ、最後まで粘り強い指導を行っている。	就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関と連携させ、最後まで粘り強い指導を行っている。	担任団と協力し、進路実現のために生徒自らが積極的に取り組むことができるようにする。	BLENDにて昨年度の職種別求人一覧を配信。興味関心のある企業調べを積極的に行うことで、採用内定を獲得させる。また、一般企業等の採用試験に向けた面接指導や採用試験練習など実践的プログラムを実施する。					
	情報	BLEND機能の積極的活用とchromebook利用の教員研修	現状は、BLENDを出欠確認のみで利用している。今年度から1年生と教職員にchromebookが配布された。現状として授業やその他学習活動での活用は多くない。	ICT機器の活用方法の推進を行っていく。教職員への研修を月に1回行っていきたい。生徒がより主体的に学んで行くような取り組みを実施したい。	ICT機器の活用方法の教職員を実施する。Googleワークスペースを最大限に活用した教育活動を行うようにした。リモート授業だけでなく、生徒の自主学習が活発になるような取り組みを実施していく。そのための研修を行いたい。					
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	今年度からは出席簿を廃止し、BLENDの入力により出欠を管理することになった。昨年度までは入力するものが二重になっていたが、今年度からはしっかりとBLENDへの入力漏れがないようにしてもらいたい。	担任・学年部長・授業担当者で連携を図り、BLENDにおける出欠の管理の流れを徹底し、生徒指導に活かすことが重要である。	今までは学年部長が終礼後に出席簿を点検して欠席者数等の記録をとっていたが、今年度からはBLENDの入力が全クラス完了しているかを放課後に点検してもらう役割をお願いし、未入力箇所があれば担任への連絡をしてもらうようにしている。					
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブル。通学時の自転車等のマナーや、近隣施設でのマナーの改善が必要である。	人間関係によるトラブルまたはマナーについては、人の気持ちを考へての行動や発言をさせる。生徒が主体的に考えられるよう意識させる。	4月当初に「ネットモラル教室」においてネット被害や犯罪について考えさせる。SNSにおけるトラブル等についても生徒に訴えかけ指導していく。「交通安全教室」などにより自転車マナーの向上をはかる。					
3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper-QUIによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper-QUI実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的に行う。					
	環境美化	SDGsの理解と実践	ゴミの分別や、教室を含め校内外の美化に努め、意識を高めている。また、手洗いなど健康面での実践を行っている。	環境・健康やエネルギー問題など、身近なことを実践できるようにする。また、物を大切に使用し、公共の場の美化に努める行動がとれるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通じ、ゴミの分別や、ゴミを減らしたり、節電や手洗い励行など、環境を考えた行動や健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。					
	事務	施設の整備・点検	エアコンの老朽化、教室証明器具が白熱電球が大半を占めている。	・順次エアコン機器更新 ・教室照明器具のLED化	・故障頻度、優先度を考え機器更新(予算化) ・2年生教室のLED化(予算化)					
	教頭	コロナ禍での生活において感染予防への意識の確立	黙食やこまめな消毒等、新たな感染拡大防止の意識、行動がなかなか根付かない。また、土日の健康観察では実施率が低水準留まりの現状。	黙食の巡回指導や見守り指導の体制強化、健康報告入力チェック、欠席状況の早期確認	昼食時の巡回、食堂の見守り指導の徹底。BLENDでの健康報告入力のチェック及び指導の体制を学年単位で構築。					
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、昨年の感染対策の取り組みを参考にしつつ、生徒募集関係の行事の企画立案を進めている。教育振興会活動においても評議員の方にご協力いただき、活性化を目指して各種行事の計画に取り組んでいる。	情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	ホームページやBLEND、マテコメールを利用し積極的な情報発信を行う。中学校対象の各種説明会などを充実させ、本校教育について広くアピールする。また、機関誌「北振」の発行、登校視察、講演会等の振興会活動を通して保護者との連携を強化する。					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われているが、感染予防の観点から以前ほどは実施されていない。	地域からの活動依頼に積極的に応え、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導を実施しているが、特に自転車マナーには改善が必要である。	交通ルールを厳守し、日頃より事故のないように心がけさせる。地域の方々や周りの人への挨拶を積極的に言うようにしていく。	先生方のご協力により、毎朝の門前指導(挨拶・交通マナー・服装指導)を実施し生徒の規範意識を向上させる。年間2回のマナーアップさわやか運動により生徒会又は地域の協力も得て、生徒自身が主体的に行動できるようにする。クラスでも担任発信によりマナーの向上をねらう。					
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	感染予防に努め、臨地での実習については一部できなかったが、概ね校内実習も含め、計画通り実施できた。看護師国家試験は全員合格し、1人を除いて県内就職し地域の医療に貢献している。	教員・生徒共に感染予防対策を十分に行い、臨地実習が行えるよう実習施設と連携を図る。看護師国家試験 全員合格をめざす。	①健康観察記録の徹底、正しいマスク着用・手指消毒・手洗い、体調不良時の対応について細やかな指導(知識・技術の定着を図る) ②実習施設との連携、打ち合わせ、連絡・相談を密に行う。 ③朝の小テストや模試後の学習会の有効活用について指導する。					
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	今年度から1年生は、新教育課程での展開となり、毎週各コース1単位の探究学習に取り組む。2、3年生は現行の教育課程による探究学習を維持展開する。	各学年でコースの特徴を活かした指導案に従って取り組む中で、協働して取り組む姿勢やアウトプット力を身につけることを目標とする。	カリキュラムの枠にとらわれず、地域を元気にするイベントに取り組む。コロナ禍においても感染対策を徹底し、地域に開かれた学校祭を企画したい。					

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C:取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である